

二世プラスの会北海道

発行：被爆2世プラスの会
北海道
北海道被爆者協会気付
札幌市白石区平和通17北6-7
Tel/Fax 011-866-9545
川去裕子 090-3119-8012

日本被団協ノーベル平和賞受賞！

核兵器使用のタブーを作り貢献

2024年のノーベル平和賞は日本被団協が受賞しました。10月11日に発表され、あちこちから受賞を喜ぶ声が上がりました。

ノーベル平和賞受賞理由として「被爆者はわれわれが言葉で言い表せないことを表し、考えられないことを考え、核兵器によってもたらされる理解し難い痛みと苦しみを何とか理解する助けとなっている。

ノーベル賞委員会は約80年間戦争で核兵器が使われていないという、励みとなる一つの事実を認めたい。



日本被団協と被爆者の代表による並外れた努力は、核のタブーの確立に大きく貢献してきた。それゆえ、今日、核兵器使用に対するこのタブーが圧力にさらされていることは憂慮すべきことだ」と述べられています。

また、被爆者はいなくなるが「日本の新たな世代は被爆者の経験とメッセージを引き継いでいる。彼らは世界中の人々を鼓舞し、教育している。そうすることで彼らは、人類の平和な未来の前提条件である核のタブーを維持することに貢献している。」と私たちが引き継いで広げていくことで核兵器廃絶の力になっていくことを評価されています。

今、世界で行われている戦争で核兵器が使われることがないように私たちが被爆の実相を引き継いでいくこと、伝えていくことが直接の力になっていくとあらわされていると感じています。

ノーベル平和賞と一緒に喜び、核兵器のない世界への力にしていきましょう。

会員のつどい 12月1日開催

12月1日（日） 10時 - 12時

北農健保会館：札幌市中央区北4条西7丁目

活動報告、会計報告
次年度以降の活動について
朗読劇「あの日あの時ヒロシマで」

札幌南高(定)生徒有志

※詳しくは、チラシをご覧ください。



'24被爆の証言と原爆展

二世は語る高校生は構成劇

今年10回目の「被爆の証言と原爆展」が7月17日、18日に道庁ロビーで開催されました。被爆者協会が来年3月に解散すると発表したこともあり、たくさんのマスコミがかけつけました。



17日の1日目は、大谷さんの司会で被爆者協会の廣田会長が挨拶し、被爆二世の川去さんが家族の被爆体験をかたりました。被爆者の金子さん、中村さんにつづき、15時から

は小学校教員の被爆2世渋口さんがギターを手に子どもたちへの授業のように『ヒロシマ消えた家族』をもとにヒロシマを語りました。NHKの昼のニュースで報道されました。

18日の2日目は、川去さんの司会で、被爆者の大村さんと松本さん宮本さんが被爆体験を語り お母さんから毎日のように被爆の話をきいていた二世の土谷さんがお母さんの被爆体験を語りました。

15時からは、札幌南高校（定時制）の1年生有志の朗読劇「あの日あの時ヒロシマで」でした。60名を超える観覧があり、ロビー



はびっしり埋まりました。松本郁子さんの役を演じた高校生と松本さんの対面もあり、高校生が「私たちが語り伝えます」と結びました。



被爆79年原爆死没者追悼会

8月6日今年も原爆死没者追悼会が開かれました。追悼会には110名が参加、来年3月に解散する被爆者協会から廣田会長が核兵器も戦争もあってはいけないと挨拶。来賓あいさつ、青年の誓いのあとフルート演奏のなか献花、献水がおこなわれました。北海道合唱団の「ねがい」「原爆を許すまじ」で1部はしめくくられました。2部では 大村さんが被爆は惨状慘劇だけが問題ではない、助かっても終わらないのが核兵器の眞の脅威だと語りました。

被爆者協会は解散するけれど来年は、被爆者連絡センターが追悼会を行っていくと報告もなされました。

